

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 3月 6日

事業所名 nico

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	0	基準に沿った床面積が確保できており、子どもの活動スペースは十分確保されている。また、活動内容や利用人数によって部屋を分ける等の工夫を行っている	
	2 職員の配置数は適切である	12	0	基準に沿った職員配置をしており、配置数は適切である。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	12	0	個別でのスケジュール提示や活動ごとに部屋を分ける工夫をしている。また、目で見てわかる工夫を各所/各場所に施している。身障者用のトイレやスロープ等も設置しており、バリアフリー化	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	12	0	複数名のスタッフが参加のもと、モニタリングと次の目標設定について会議を行っている。また、決定した内容については、所内会議内で全体共有している。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	0	事業所評価を実施し、ご意見を頂き参考にしている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	0	全職員が自己評価を実施し、結果を集計している。保護者の方には会報を通して結果を周知し	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	12	第三者による外部評価は実施していない。	第三者による外部評価の依頼を検討していく。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	0	隔月で法人全体の研修に参加している他、年4回の内部研修を実施している。また、感染症対策を十分に取りながらの外部研修への参加やオンラインでの研修にも参加している。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	12	0	ご家庭や関係機関から聞き取りを基にアセスメント実施し、関係機関との協議を踏まえて個別支援計画を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12	0	モニタリング月(半年に1回以上)にS-M社会生活能力検査やPVT-R絵画描き発達検査を実施し、お子さまの状況を把握している。また医療機関等で実施していることを参考に計画へ反映	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	12	0	各職員が週単位でローテーションし日案を作成している。作成した日案については、全体で確認し必要に応じて修正している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	0	動と静の活動を組み合わせたり、週単位で立案するスタッフを変えたりすることで、活動プログラムが固定化されないよう工夫	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	12	0	平日は、子どもの状況に配慮し取り組みを行ったり、個別学習を行っている。長期休暇時には、感染症対策を十分に行いながら、可能な範囲で屋外での活動を設定している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	12	0	子どもの状態に合わせて、個別活動と集団活動を組み合わせている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	0	前日に活動内容等の引継ぎを行っている。当日についても、変更点や追加等の確認事項を引継ぎしている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	0	業務終了時は限られたスタッフしかいない為、ICTを活用し当日の日誌や次の日のスケジュール、支援に関することを全体共有している。その情報をもとに当日朝のミーティングでも共有して	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12	0	個別支援計画の目標に沿いながら毎日必ず記録を残し、その内容から次の日の支援の内容を改善している。必ずしも実施できておらず、常に発展させていけるよう取り組みたい。	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	12	0	年2回、モニタリングを行っている。利用開始時は1～3か月でモニタリングを実施している。ご家族、スタッフ、相談支援専門員、場合によっては保育士等の関係機関も同席の上、計画の見
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	12	0	基本活動については、概ね取り入れ実施している。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12	0	モニタリング実施の際は、相談支援専門員やご家族、学校関係者や行政など、その他子どもの状況を把握している関係者を
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	12	0	それぞれの「学校通信」や「nico通信」での情報交換や都度の電話連絡で情報共有を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	12	0	受け入れ時に医療機関や学校と情報共有を行い、連携している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	12	0	利用開始前に関係機関に訪問し、これまでの支援経過等の引継ぎをもらっている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	-	-	現在対象となる児童はいないが、今後対象となる児童がいた際は、関係機関への引継ぎを行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12	0	発達障害者支援センターや児童発達支援センター主催の研修に参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	12	0	長期休暇時に地域にある児童館との交流会を実施している。児童館を利用している子どもと関わりを持てるよう支援員が橋渡しをしたり、一緒に行事に参
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	12	0	地域の自立支援協議会に今年度から児童支援部会が発足し、副施設長が副部会長を務め児童に関することを協議している。また、必要に応じて主任や支援スタッフも参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	12	0	年に2回以上のモニタリングの機会を設け、面談を実施している。その他、送迎時に直接お伝えしたり毎日の連絡帳で実施した支援内容やその時のお子さんの様子について記載している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	12	0	ペアレント・トレーニングは実施していないが、年2回の茶話会を行いおさまへの対応について助言等を行ってい
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	0	契約の際に、契約書等を家族とともに読み合せし、質問があった際に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	0	連絡帳や送迎の際に保護者から相談があった場合は、ご家族の不安を取り除くことができるよう助言している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	12	0	親の会の活動の支援は法人全体で行っており、昨年度までコロナウイルスの影響で停止していた活動も今年度から再開している。事業所内では保護者同士の交流を目的に「親子レク」や「茶話会」を実施している。今後は保護者が参加しやすい形を検討し、機会を増やしていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0	外部の苦情対応者を設置する他、年に1回保護者アンケートを実施し申し入れの体制整備を図っている。申し入れがあった場合については、苦情対応マニュアルに則って管理者を含め協議する体制を整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	0	年3回「ほほえみ通信」、年5回「nico通信」を発行し、法人全体の取り組みや事業所内で行っている活動の目的などについて発信している。また、長期休みの際は予め外出予定を周知してい
	35	個人情報に十分注意している	12	0	個人情報保護法に基づき、保護者の同意を得ないものに関して取り扱うことはない。

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0	情報を伝える際は、刺激が統制された環境を設定する他、相手がわかりやすい手段(イラストや写真)を使って伝えている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	12	0	事業所主催で地域住民を招待する行事は実施できていないが、母体企業と共催で行事(夏祭り)を実施している。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	12	0	各種マニュアルについては、契約時に保護者の方へ周知している。感染症マニュアルについては、内部研修で職員全体へ周知しているとともに、流行時期には保護者の方へ改めて周知して	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	0	月に1回、避難の際の約束事を確認したあと、各スタッフで役割分担し、避難の掛け声とともに決められたルートを移動する訓練を行っている。地震や防犯訓	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	法人全体で内部研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	12	0	現在対象となる児童がいない為、具体的な取り組みは実施していない。今後必要な対象児が利用となった際は、適切に対応していく。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	0	利用開始時に保護者の方に聞き取りを行い、必要に応じて医師の指示書作成の依頼と提出をお願いしている。事業所内でも共有し、食事提供の際は配慮	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	0	ヒヤリハット報告書を作成し、法人全体の危機管理委員会に提出している。内容を精査した上で今後の対応など全体共有して	